

C-1

区域が違うから名鉄赤沢別荘地の水源への影響はないと断言していますが、地下深い所で、両者の水脈が絶対につながっていない証拠となるデータやデータを源泉（無回答）を含めて提出のこと

(回答)

今回の事業地の地形と水脈は、近隣の別荘地の水源エリアと区域が違い、かつ、造成計画につきましても表層土のみの切盛を計画しておりますので、地下水源や源泉への影響はないものと考えております。県の水利用課に伊東市の地下水源や源泉について問い合わせを行いました。県としても地下水の把握は難しいのでお答えできないとの回答でした。また、市の水道課にも同内容にて問い合わせを行いました。市では上水道しか把握していないとの回答でした。よって、県及び市にも根拠となる地下水脈や源泉に係る資料は存在しませんでした。現況の地形や流域により区域が違うことを確認する以外方法は無いと考えております。

C-2

残置森林に降った雨は一部は地中に浸透、一部は蒸発、残りは敷地外へ流出します。もし水脈がつながってれば、水源及び源泉に浸透水が混入します。よって伐採前後での浸透水の比率を尋ねています。水脈はつながっていない、あるいは浸透水の比率は変わらないという論拠が明確ならば説明して下さい。

(回答)

C-1と同じ回答となります。

C-4

種子吹付をするとき、現在、肥料の使用は考えておりませんとの回答。将来的にも肥料は使用しないと宣言すべき

(回答)

あくまでも現在の計画において肥料の使用は考えておりません。何等かの原因により吹付した種子が著しく成長しない場合等におきましては、将来的に肥料を使用する可能性がございます。また、現時点で肥料の種類は決まっておられません。ただし、除草剤等の使用による海洋汚染が危惧されておりますので、除草剤等の薬剤は一切使用しません。こちらにつきましては、「伊豆高原太陽光発電所」の計画に関するご懸念事項についてのご回答、の5番にて回答しております。

D-1

伊雄山に鹿や猪がいないという認識は明らかに事実誤認です。被害が出たら駆除する対症療法ではなく予防策を考えて下さい。

(回答)

伊雄山に鹿やイノシシがいないという回答はしておりません。獣害の早期予防対策と駆除対策につきましては、再A-4にて回答しております。